

ミカン生育情報

千葉県
平成30年10月号

平成30年9月の気象

平成30年9月の半旬別の気象を表1に記した。平均気温は、第3及び第6半旬を除く4半旬で平年並みか高かった。月平均気温は22.7℃で、平年並みで、前年より0.2℃高かった。

降水量は、第1半旬を除く5半旬で平年並みか上回った。月合計は416mmで、平年の166%、前年の148%であった。

日照時間は、第2半旬を除く5半旬で平年並みか下回った。月合計は115時間で平年の79%、前年の86%であった。

9月30日に台風24号が和歌山県に上陸し、日本列島を縦断した。その影響で、本県にも農作物や園芸施設等に大きな被害が生じた。

表1 平成30年9月の気象（暖地園芸研究所）

半旬	平均気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	25.4	24.9	21.0	24	26	28	18	30	9
2	25.9	24.2	23.6	75	45	16	33	28	26
3	21.2	23.5	24.3	30	30	12	10	25	26
4	22.4	22.4	22.9	59	41	80	18	23	23
5	22.3	21.4	21.6	52	50	40	21	21	24
6	19.2	20.4	21.5	176	59	108	14	20	26
平均/計	22.7	22.7	22.5	416	251	282	115	145	134

注) 降水量の本年値は館山測候所の値

果実及び樹の生育

9月28日時点での南房総市内2園地と暖地園研の果実の生育状況を表2に示した。横径、縦径の平均値は、早生温州ではそれぞれ6.2cm、5.0cmで、普通温州ではそれぞれ6.7cm、4.9cm、日南1号は横径が6.8cm、縦径が5.0cmであり、日南1号は平年並みで、早生温州及び普通温州は千倉地区を除いて平年より肥大が早い。

これまでの肥大状況を表3に示した。調査日間の肥大量は横ばいであり、肥大は続いている。

暖地園研内の「日南1号」の果実品質を表4に示した。果実品質を調査した果実では浮皮果の発生やカメムシ被害果は無かった。前年と比べて、着色程度及び糖度は同程度であったが、酸度は本年のほうが低い値を示した。果肉歩合は本年のほうが高い傾向であった。

暖地園研内の極早生温州は9月中旬から着色が始まった。早生温州でも果実の緑色が抜け始めた樹がある。

生理障害、病害虫の発生（暖地園芸研究所）

生理障害では、9月前半は温州ミカン及び一部中晩柑で裂果が散見された。
暖地園研での果樹カメムシ類の誘殺数は、新世代の成虫の発生により増加している。

鳥の加害痕等から腐敗している果実も見られた。

表2 果実の生育*1（平成30年9月28日）

No.	種類・品種	調査地	横径 (cm)		縦径 (cm)	
1		三 芳	6.2	(104)	5.1	(106)
2	興津早生	千 倉	5.8	(99)	4.5	(97)
3		暖地園研	6.7	(112)	5.4	(111)
4		三 芳	7.0	(113)	5.2	(110)
5	大津4号	千 倉	6.6	(104)	4.6	(100)
6		暖地園研	7.0	(110)	4.9	(103)
7		三 芳	6.7	(110)	5.3	(111)
8	青島温州	千 倉	6.0	(97)	4.4	(93)
9		暖地園研	6.8	(108)	4.9	(103)
10	日南1号	暖地園研	6.8	(100)	5.0	(97)
	平均*2	早生温州	6.2	(105)	5.0	(105)
		普通温州	6.7	(107)	4.9	(103)

() の数字は平年値（平成10～29年の平均）を100とした比数

※「日南1号」は平成27年から調査したため、平成27～29年の平均を100とした比数

*1 各地点の各品種の値は40果の平均 ただし、落果により調査果実を変更した樹がある

*2 早生温州：No.1～3の平均、普通温州：No.4～9の平均

表3 7～9月調査の横径、縦径及び果形指数の推移

No.	品種	地点	横径 (cm)			縦径 (cm)			果形指数※		
			8/1	8/31	9/28	8/1	8/31	9/28	8/1	8/31	9/28
1		三芳村	4.2	5.2	6.2	3.8	4.4	5.1	111	117	120
2	興津早生	千倉町	4.2	5.0	5.8	3.6	4.1	4.5	118	122	128
3		暖地	4.8	5.7	6.7	4.2	4.8	5.4	112	118	124
4		三芳村	4.7	5.7	7.0	4.0	4.5	5.2	118	127	134
5	大津4号	千倉町	4.5	5.5	6.6	3.6	4.2	4.6	125	132	143
6		暖地	5.8	5.8	7.0	3.7	4.4	4.9	158	134	144
7		三芳村	4.5	5.7	6.7	3.9	4.6	5.3	117	122	128
8	青島温州	千倉町	4.2	5.1	6.0	3.5	4.0	4.4	120	127	137
9		暖地	4.6	5.6	6.8	3.8	4.4	4.9	121	127	139
10	日南1号	暖地	4.8	5.8	6.8	4.2	4.6	5.0	112	126	136

※果形指数は横径÷縦径×100の値、大きいほどへん平な形

表4. 極早生温州「日南1号」の果実品質（平成30年10月1日）

調査地	着色程度		糖 度%		酸 度%		甘味比* ¹		果肉歩合%	
	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年
暖地園研	3.2	3.0	8.4	8.3	0.83	1.35	10.0	6.2	85.8	84.8

* 1 甘味比=糖度/酸度

9～10月の栽培管理

樹上選果 収穫直前まで園地を見回り、大玉果、小玉果、傷果、病虫害被害果などの商品性が劣る果実を摘果して、運搬や収穫後の選果の労力を少なくする。

裂果した果実及び腐敗した果実は、病気の発生源になるため早急に取り除く。

夏秋梢の除去 今年着果量が少なかった樹で夏秋梢が多く発生している場合には、特に強い枝を9月下旬以降に間引き剪定する。夏秋梢の除去はかいよう病の防除にもつながるため、栽培に影響の出ない程度に適宜剪定する。ただし品種や系統によっては夏秋梢の除去が来年の着花に影響を及ぼす可能性があるため、事前に着花習性を調べてから行う。

早生温州の収穫 着色が良好な果実から減酸を確認し収穫する。収穫時のハサミ傷や落果は収穫後の腐敗の要因となるため、果実はていねいに扱う。収穫果実の果梗枝はできるだけ短く切り、他の果実を傷つけないようにする。また、果実を扱う時は手袋をする。

収穫直後の果実は果皮の水分が多いので出荷予措を行う。コンテナに果実を7分目ほど入れ、風通しのいい日陰に2～3日置くと、果皮がしなやかになり、選果や出荷時の傷果の発生予防になる。果実をコンテナに詰め込み過ぎると下段の果実が傷みやすく、貯蔵・流通中の腐敗果実発生の原因となるため、詰め込み過ぎないように心がける。

秋肥 樹勢の回復、耐寒性の向上及び翌年の花芽分化の促進を図るため、秋肥を施用する。極早生温州は収穫後、早生温州は11月上旬、普通温州は11月中旬に施用する。また、乾燥や着果負担の影響で樹勢が落ちた樹は、収穫後直ちに窒素主体の液肥を葉面散布して樹勢の回復を図る。

病虫害の防除 10月中旬～11月上旬には、貯蔵病害である青かび病、緑かび病の防除を行う。同じ系統の成分を含む薬剤の連続使用は、耐性菌が出現する恐れがあるので注意する。褐色腐敗病の常発園や発生が心配される場合は、予防的な薬剤散布を行う。ミカンハダニ・ミカンサビダニや果樹カメムシ類は発生に応じて防除を行う。

収穫時期が近付いているため、農薬の使用基準にある収穫前日数と使用回数に注意し、農作物病虫害雑草防除指針を参考に行う。

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合があります。

《 生育情報の問合せ先 》

千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話 0470-22-2961

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>